

生命アクサ 多摩地区商工会議所BWCトップマネジメントカンファレンス 健康経営導入・実践の知見共有

アクサ生命は、10月23日に東京・武蔵野市の武蔵野商工会議所5階会議室で多摩地区7商工会議所の会頭および専務理事を招聘し、商工会議所共済制度の普及推進と地域内の商工事業者に対する健康経営の導入・実践を呼びかける際の知見を共有し高める「多摩地区商工会議所BWC（ベストウイズクラブ）トップマネジメントカンファレンス」を開催した。健康経営の導入・実践における実践経験と多様な実証プログラムから得られた知見を持つシニアエキスパートアドバイザーによるレクチャーなどが行われ、約30人が参加した。

開会に先立ち、東京支社 紹介し、「今回、会頭、副会頭および専務理事にDGsを民間企業としてサポートするアクサのサステナビリティの取り組みを」



多摩地区カンファレンス集合写真



武蔵野商議所の高橋会頭



八王子商議所の榎崎会頭

「今回、会頭、副会頭および専務理事にDGsを民間企業としてサポートするアクサのサステナビリティの取り組みを」

武蔵野商工会議所会頭の高橋氏は「現在、日本経済は、デフレからの脱却や仕入価格、物価や人件費の高騰など、大変厳しい環境にある。そのような中でも、われわれは地域を守り、会員、従業員をしっかりと守り、地域の活性化を図ってきたい。従業員の雇用、福利厚生などを考えた場合、アクサ生命との連携は欠かせないと感じている。カンファレンスを通して皆さんと親交を深め、今後、商工会議所は何をすべきか明確にし



樋口氏の講演

500に認定されている健康経営実践企業の経営者から働く意義を学ぶことのできる場なども設け、全5回、5週にわたって提供している」と説明した。

連携協定数は472にのぼる。さらに、健康経営の普及促進や健康づくり等に関する自治体との連携協定数が73（10月末現在77）に、全国健康保険協会支部との健康経営の普及促進に向けた覚書締結は44県に広がっており、企業における健康経営の導入実践と職域の従業員とその家族の健康づくりの支援を自治体や保険者と連携して進めている

同氏は「健康経営に」として重要な①経営者が従業員を大切に思う気持ち②従業員が自分の人生を大切に思う気持ち③それを実現するツールとしての健康④同様にツールの四つだ。健康と仕事の不均衡を乗り越え、『両立』を目指すこと、経営者と従業員の想いのずれ違いを乗り越え『想いを共有する』ことで、

従業員のウェルビーイング実現目指す

メントエキスパートの樋口氏が「健康経営を通じて目指す未来への人的資本の投資に向けて」をテーマに講演した。樋口氏は「当社は2015年から企業経営者向けの健康経営セミナーを開催し、企業に対する健康経営の普及啓発と実践支援を進めてきた。地域のステークホルダーとのパートナーシップにも力を入れ、24年3月現在、全国の商工会議所との健康経営

企業の永続的な発展と従業員のウェルビーイングの実現を目指すことができる」と話した。

「健康経営を通じて目指す未来への人的資本の投資に向けて」をテーマに講演した。樋口氏は「当社は2015年から企業経営者向けの健康経営セミナーを開催し、企業に対する健康経営の普及啓発と実践支援を進めてきた。地域のステークホルダーとのパートナーシップにも力を入れ、24年3月現在、全国の商工会議所との健康経営

最後に、関東営業局長の落合隆光氏が関東地区の共済制度の状況について説明し、閉会した。